

2013年12月11日

報道関係各位

子どもの成長と住宅選びに関する調査**“子育ては集合住宅より一戸建てが適していると思う”9割**

子育てのために外せない“住環境”の条件 6割強のママが「安全な通学路」を重視
子育てのためには外せない“住宅”の条件 「日当たり良好」「遮音性」「耐震性」
寒冷地では「高断熱・高気密」「節電・省エネ」を重視

住宅選びで後悔しがちなポイント「予算・価格」「立地」「水まわり」
一戸建て購入者の後悔「耐震性を重視すれば良かった」2割半

子ども部屋を与えても良いと思う時期は？平均は9歳頃から
子ども部屋の“ドアの鍵” 約6割の親が反対派

カナダの高性能住宅を直輸入し全国で販売しているセルコホーム株式会社 (<http://selcohome.jp/>) (本社：宮城県仙台市)は、2013年11月21日～11月26日の6日間、高校生以下の子どもがいる25歳～44歳の男女を対象に「子どもの成長と住宅選びに関する調査」をモバイルリサーチ(携帯電話によるインターネットリサーチ)により実施し、2,000名の有効サンプルを集計しました。(調査協力会社：ネットエイジア株式会社)

調査結果**◆40代前半で「持ち家」が過半数に****◆住みたい住宅 一戸建て派が8割半****◆“子育ては集合住宅より一戸建てが適していると思う”9割**

高校生以下の子どもがいる25歳～44歳の男女2,000名に対し、現在居住している住宅の所有状況を聞いたところ、「持ち家」の割合は4割(39.6%)、「賃貸」は4割半(45.4%)、「実家住まい」は1割半(15.1%)となりました。持ち家の割合は20代後半の2割強(23.6%)から年を追うほど高くなり、40代前半では過半数(52.8%)となりました。

また、現在居住している住宅の形態について聞いたところ、「一戸建て」(51.2%)と「集合住宅」(48.8%)がおおよそ半々となりました。

居住都市圏別にみると、一都三県に居住する方は「集合住宅」(58.0%)の割合が高く、地方(都市圏以外)に居住する方は「一戸建て」(59.6%)の割合が高くなっています。

続いて、住宅の形態について、どのような意識を持っているか質問を行いました。自身が住みたいと思うのは一戸建てと集合住宅のどちらか聞いたところ、『一戸建て』(断然+どちらかといえば、以下同様)が8割半(86.2%)となりました。現在集合住宅に住んでいる方も『一戸建て』に7割半(75.6%)が住みたいとの希望を持っています。

また、子育てに適しているのはどちらだと思うか聞いたところ、『一戸建て』が9割(90.2%)となりました。子育て世代にあたる回答者の大半が“一戸建てに住みたい”との希望を抱いています。

また、ランニングコスト(維持・修繕費・光熱費)が有利なのはどちらだと思うか聞いたところ、『一戸建て』(51.5%)と『集合住宅』(48.7%)がおおよそ半々となりました。

現在、一戸建てに住んでいる方は『一戸建て』(61.9%)を、集合住宅に住んでいる方は『集合住宅』(59.6%)を有利

だと思割合が高くなっています。

**◆子育てのためには外せない“住環境”の条件「近隣の生活施設」「安全な通学路」「近隣に保育所・幼稚園」
6割強のママが「安全な通学路」を重視**

**◆子育てのためには外せない“住宅”の条件「日当たり良好」「遮音性」「耐震性」
寒冷地では「高断熱・高気密」「節電・省エネ」、東海地方では「耐震性」を重視**

◆シックハウス対策、どれだけ知っている？「換気」は約7割が認知も、「無垢材」は4割弱

全回答者 2,000 名に対し、子育てのために外せないと思う“住環境”の条件を聞いたところ、「近隣の生活施設（病院・ショッピング施設・図書館など）が豊富」が 65.2%で最も高くなりました。次いで、5 割台で「安全な通学路」（53.5%）、「近隣に保育所・幼稚園が整備されている」（52.0%）、「子どもの遊び場（公園など）が豊富」（51.6%）が続き、4 割台で「良好な近所関係」（44.4%）、「職場へのアクセスが良い（駅チカ・通勤便利）」（43.0%）、「親（義親）の近く」（41.7%）、「育児支援が充実した自治体」（41.5%）が続きました。子育て世代が求める“住環境”の条件は多岐に渡ることがわかります。

また、女性は男性に比べて重視する住環境が多いようで、特に、「近隣の生活施設が豊富」（男性 55.7%＜女性 74.7%）や「安全な通学路」（男性 44.7%＜女性 62.2%）、「近隣に保育所・幼稚園が整備されている」（男性 45.1%＜女性 58.9%）、「良好な近所関係」（男性 36.5%＜女性 52.3%）などの項目では 10 ポイント以上の差がみられました。

同様に、子育てのために外せないと思う“住宅”の条件を聞いたところ、5 割台の回答が集まったのは「日当たり良好」（59.2%）、「遮音性がしっかりした住宅」（56.8%）、「耐震性がしっかりした住宅」（54.4%）で、次いで 4 割台で「風通しの良い住宅」（45.9%）、「高断熱・高気密（夏涼しく、冬暖かい）住宅」（42.9%）、「見通しの良い（子どもの様子が見える）キッチン」（42.0%）が続きました。

男女別でみると、“住環境”で求める条件と同様に女性は重視する項目が多くなり、特に「日当たり良好（男性 46.1%＜女性 72.2%）」「風通しの良い住宅」（男性 34.4%＜女性 57.3%）では 20 ポイント以上の差がみられました。

また、現在集合住宅に住んでいる方は、一戸建てに住んでいる方より「遮音性がしっかりした住宅」（一戸建て 49.8%＜集合住宅 64.1%）を重視する割合が高くなる特徴がみられました。

居住地域別でも特徴がみられ、北海道や東北地方など、寒冷地にあたる地域に居住している方は「高断熱・高気密（夏涼しく、冬暖かい）住宅」（北海道 54.9%、東北地方 49.6%）や「節電・省エネ住宅」（北海道 43.6%、東北地方 44.2%、北陸・甲信越 44.7%）を重視する割合が高く、東海地方では「耐震性がしっかりした住宅」（60.9%）が高くなりました。

また、化学物質に敏感なお子様がいるご家庭では充分に気をつけたい“シックハウス対策”ですが、子育て世代にはどの程度、認知されているのでしょうか。全回答者に知っているシックハウス対策を聞いたところ、「換気・風通しを良くする（24 時間換気システムなど）」が約 7 割（68.9%）で、最も知られている対策になりました。以下、知っている割合は 4 割を切り、「無垢材などの、化学物質の少ない建材を選ぶ」（38.0%）、「高温多湿を避ける」（35.9%）、「空気清浄機を設置する」（34.7%）が続きました。

◆住宅選びで後悔しがちなポイント「予算・価格」「立地」「水まわり」

◆一戸建て購入者の後悔「耐震性を重視すれば良かった」2割半、「高断熱・高気密住宅を選べば良かった」2割

住宅選びではいくつも外せない条件があるようですが、住宅選びで“もっと気をつけるべきだった”と後悔しがちなポイントはどこなのでしょう。

実家住まい以外の方（1,699 名）に対し、現在の住宅を選ぶとき重視せず、後悔していることを聞いたところ、「予

算・価格(購入費、家賃が高すぎた)」が3割強(32.0%)で最も高くなりました。様々な条件にこだわった結果、予算をオーバーしてしまい、後悔している方が多いのでしょうか。予算内で絶対に譲れない条件と譲ってもいい条件を見極めることも、後悔しない住宅選びに必要なのかもしれませんが。次いで、「立地(周辺環境・施設)」(26.6%)、「水まわりの使い勝手」(26.5%)、「居住空間の広さ」(25.1%)が続きました。日常生活の暮らしやすさを決定付けるこれらのポイントは、住宅選びの際に妥協すると後悔してしまう割合が高いようです。

また、持ち家の一戸建てに住んでいる方は持ち家の集合住宅に住んでいる方に比べて、「耐震性・躯体・工法(2×6等の工法)」(一戸建て24.8%>集合住宅17.5%)、「見た目の美しさ(外観)」(一戸建て21.9%>集合住宅12.0%)、「高断熱・高気密」(一戸建て20.3%>集合住宅9.0%)を重視せずに後悔をしている割合が高い傾向がみられました。後悔しない一戸建ての購入には、マンションなどの集合住宅を購入するときと比べて、“耐震性”、“外観の見た目”、“高断熱・高気密”を軽視しないように気をつけると後悔しない住宅選びができるのかもしれませんが。

◆子ども部屋を与えても良いと思う時期は？平均は9歳頃から

◆子ども部屋の“ドアに鍵” 約6割の親が反対派

◆子ども部屋に“インターネット環境”はOK？「時期が来たらOK」6割半、平均13歳頃からOK

◆6割半の親は子ども部屋に“WEBカメラ”はNG

◆子ども部屋に“家庭用ゲーム機”、平均10歳頃からOK

全回答者2,000名に対し、子どもに子ども部屋を与えて良いと思うか聞いたところ、4人に3人の割合(74.9%)で「時期が来たらOK」と回答しました。「何歳からでもOK」は22.9%、「NG」は2.3%となっています。

多数派となった「時期が来たらOK」と答えた方(1,497名)に、何歳頃から子ども部屋を与えてよいと思うか聞いたところ、「6歳頃(小学校低学年)から」～「12歳頃(中学生)から」に回答が集中し、与えて良い時期の平均は9.0歳頃から、となりました。小学校の中学年から高学年になる時期に、子ども部屋を与える親が多いのではないのでしょうか。

同様に、子ども部屋の環境について、子どもに与えて良いと思うか聞いたところ、《勉強机》では「何歳からでもOK」が26.6%、「時期が来たらOK」が69.3%となり、与えて良い時期の平均は7.2歳頃から、となりました。子どもを個室に籠らせないための工夫として、勉強机を置かずにリビングで勉強させる、といった方法を取る親もいると聞きますが、子ども部屋に勉強机を設置することに対して抵抗感はあまり強くないようです。

今回調査した“子ども部屋の環境”の中で、抵抗感が最も強かったのは《ドアに鍵》で、「NG」が約6割(58.3%)となりました。そのほか、子ども部屋に置く《テレビ》は「何歳からでもOK」という方が約2割(21.7%)となった一方で、「NG」との回答も約3割(32.4%)みられました。《インターネット環境》については「何歳からでもOK」は1割(9.9%)と少数派で、「時期が来たらOK」が6割半(64.0%)、与えて良い時期の平均は12.7歳頃から、となりました。

また、子ども部屋で使う私物についても同様に、子どもに与えて良いと思うか聞いたところ、《WEBカメラ(ビデオチャット)》は抵抗感が強いようで、「NG」が6割半(64.3%)となりました。《電子書籍リーダー》や《家庭用ゲーム機》は「時期が来たらOK」が過半数(それぞれ51.1%、52.7%)となりました。与えて良い時期は《電子書籍リーダー》は平均12.4歳頃から、《家庭用ゲーム機》は平均10.1歳頃から、となりました。

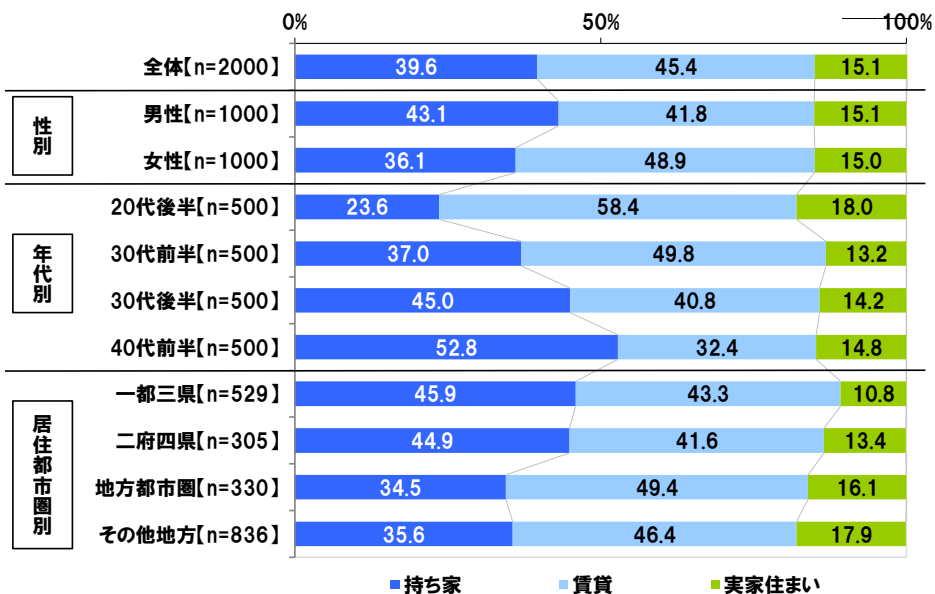
◆年末は家族揃って我が家で夕食 大晦日は「我が家で家族と過ごす」9割

最後に、年末のイベントについて、夕食の時間帯に子どもがどこで過ごす予定か聞いたところ、《クリスマス(12月25日)》には「我が家で家族と」過ごす方が8割半(85.3%)、《大晦日(12月31日)》は9割(90.9%)となりました。自宅で家族揃ってクリスマスや年越しを過ごす方が多いようです。

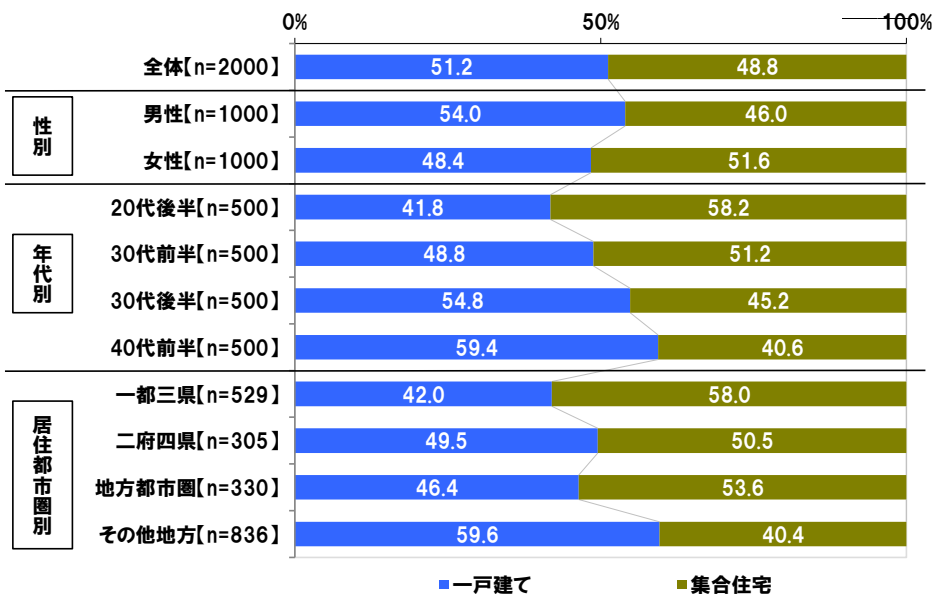


グラフ

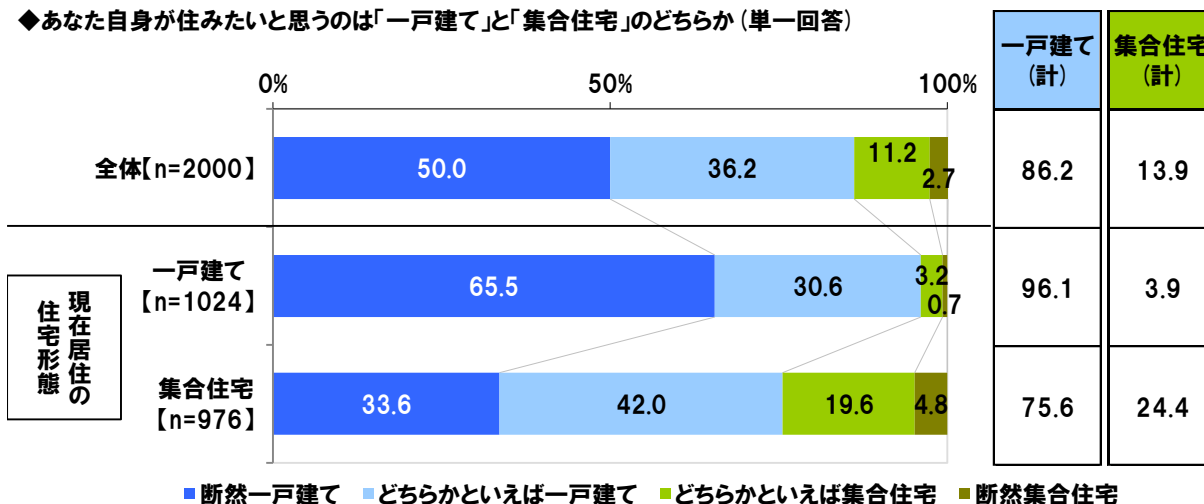
◆現在居住している住宅の所有状況(単一回答)



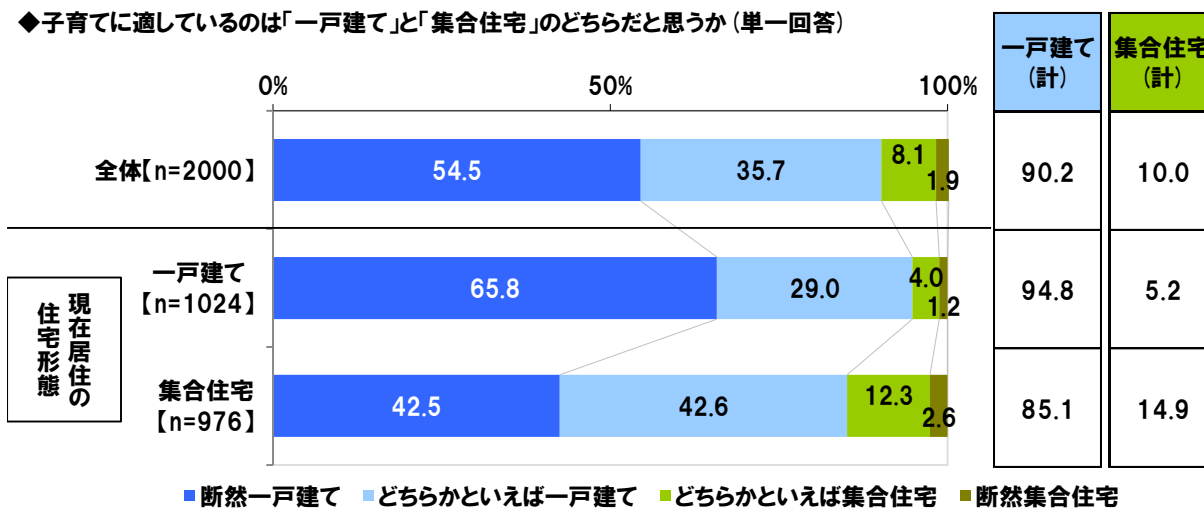
◆現在居住している住宅の形態(単一回答)



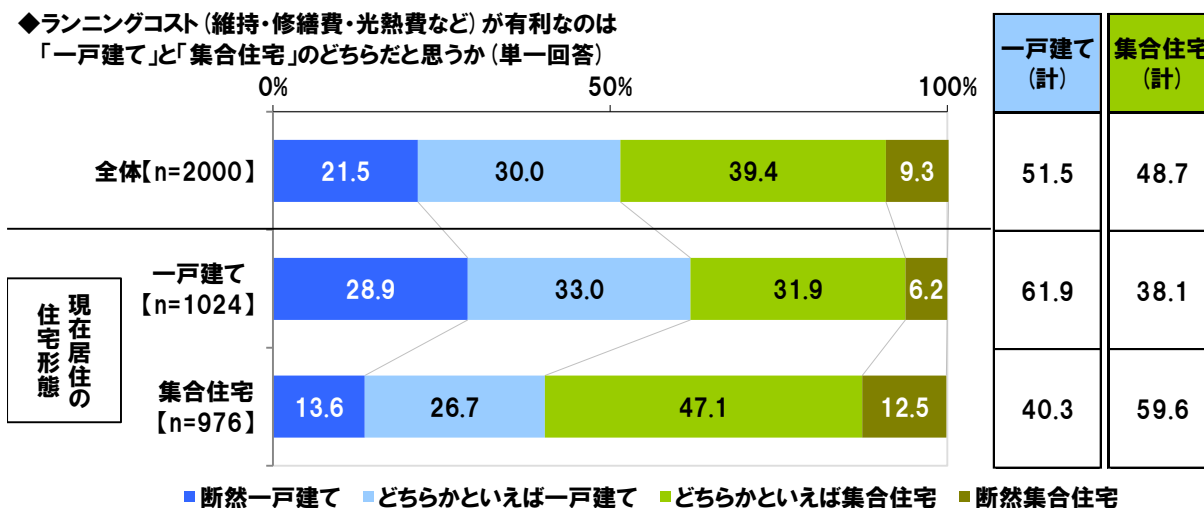
◆あなた自身が住みたいと思うのは「一戸建て」と「集合住宅」のどちらか(単一回答)



◆子育てに適しているのは「一戸建て」と「集合住宅」のどちらだと思うか(単一回答)

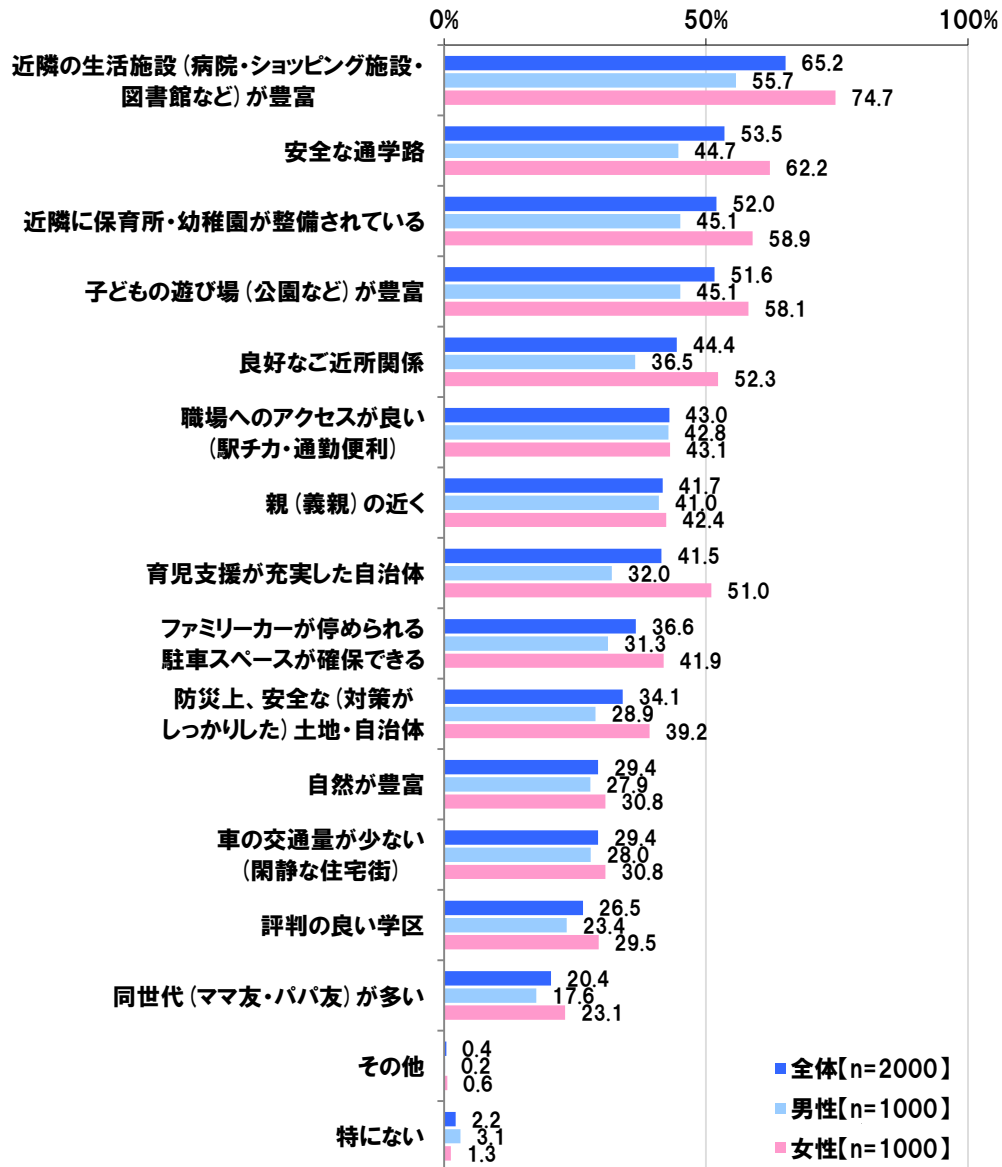


◆ランニングコスト(維持・修繕費・光熱費など)が有利なのは「一戸建て」と「集合住宅」のどちらだと思うか(単一回答)





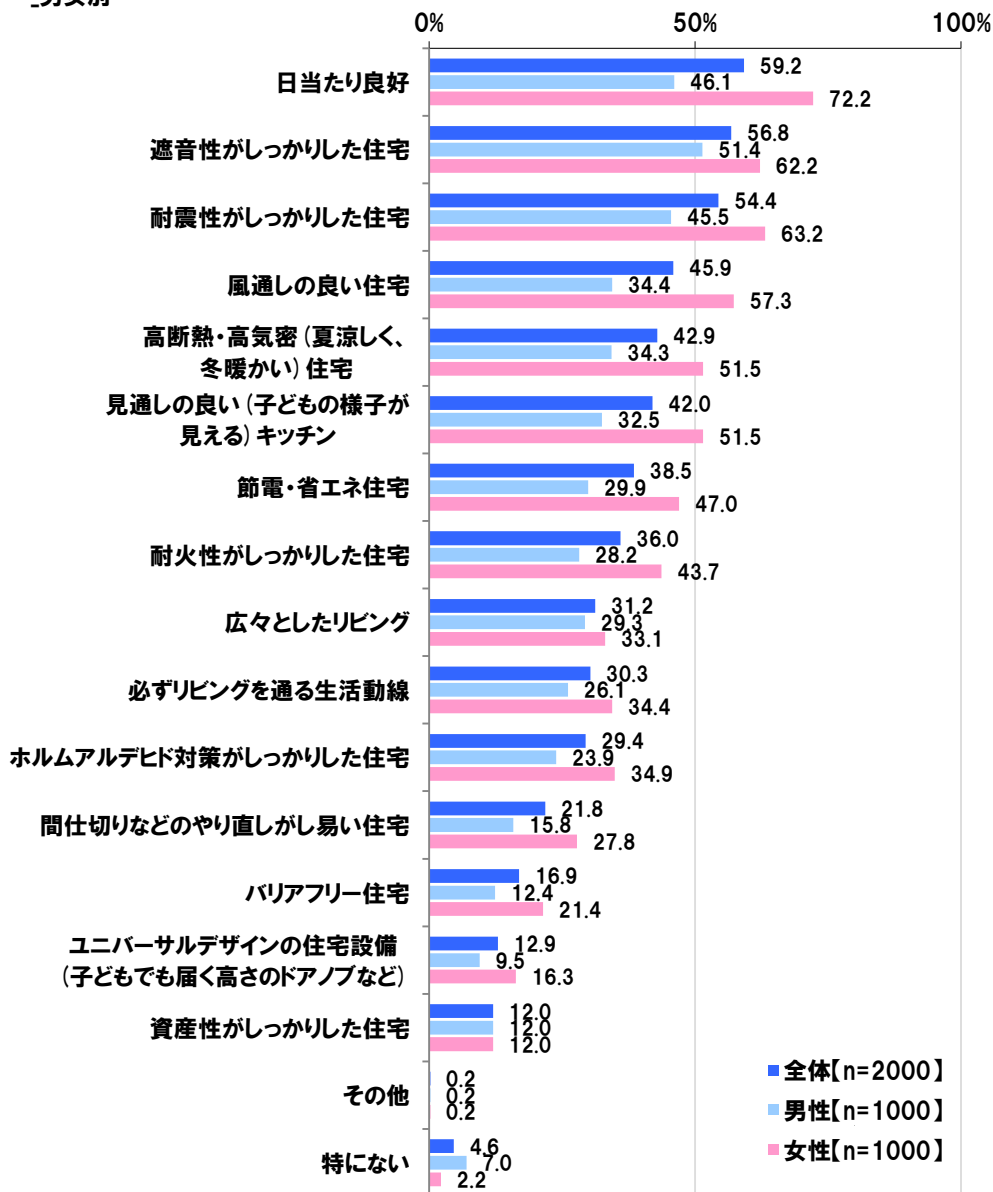
◆子育てのためには外せないと思う“住環境”の条件（複数回答）





◆子育てのためには外せないと思う“住宅”の条件 (複数回答)

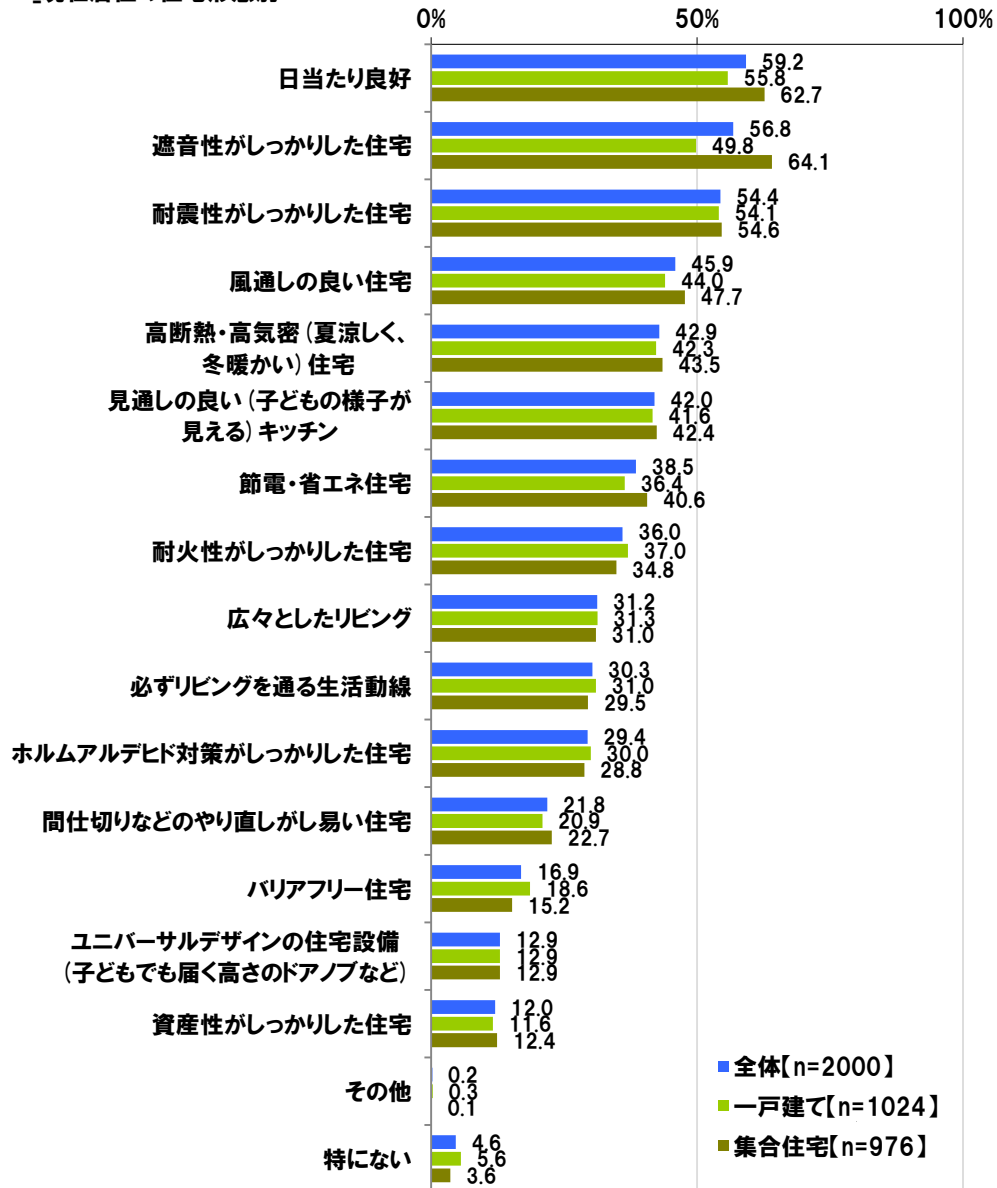
男女別





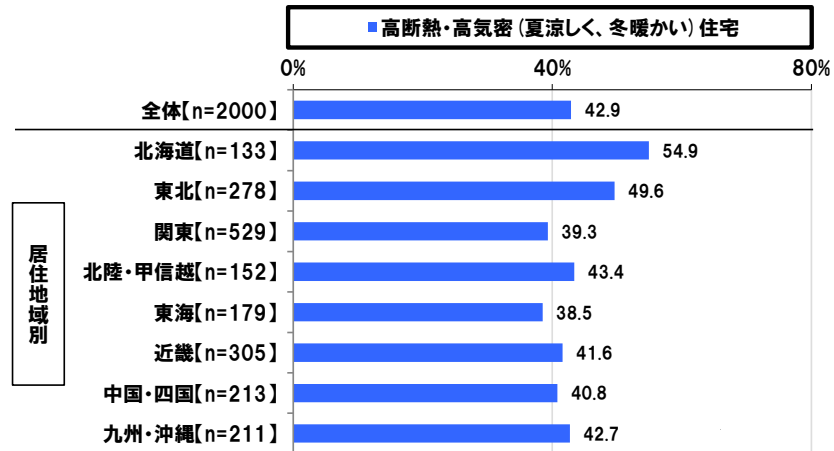
◆子育てのためには外せないと思う“住宅”の条件（複数回答）

現在居住の住宅形態別

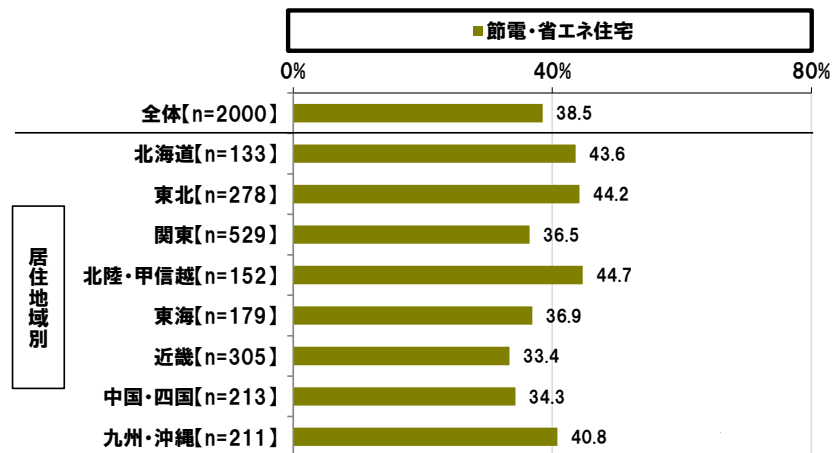




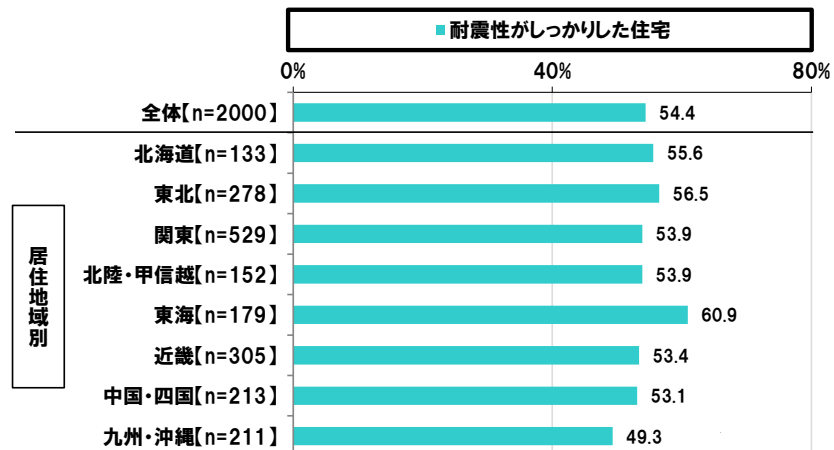
◆子育てのためには外せないと思う"住宅"の条件 (複数回答より抜粋)



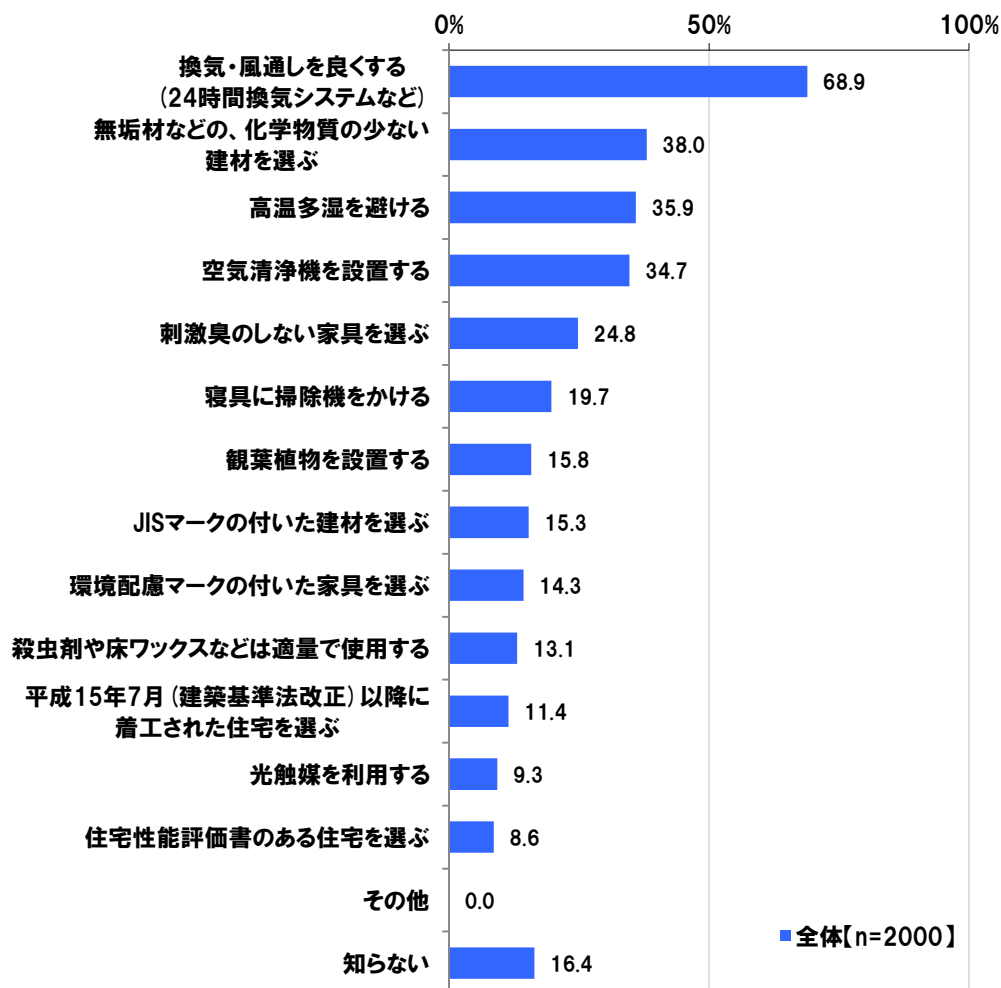
◆子育てのためには外せないと思う"住宅"の条件 (複数回答より抜粋)



◆子育てのためには外せないと思う"住宅"の条件 (複数回答より抜粋)



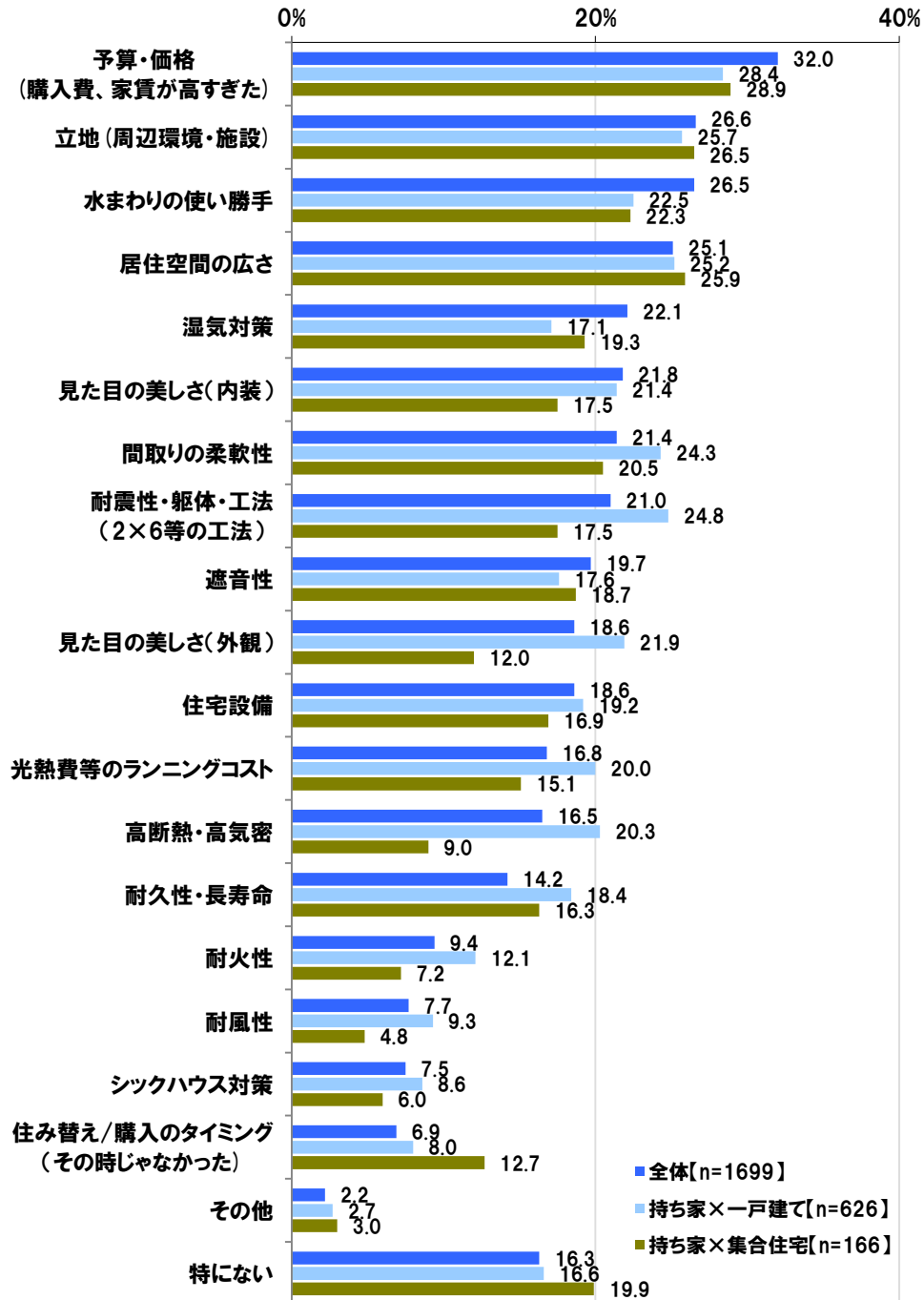
◆知っているシックハウス対策（複数回答）



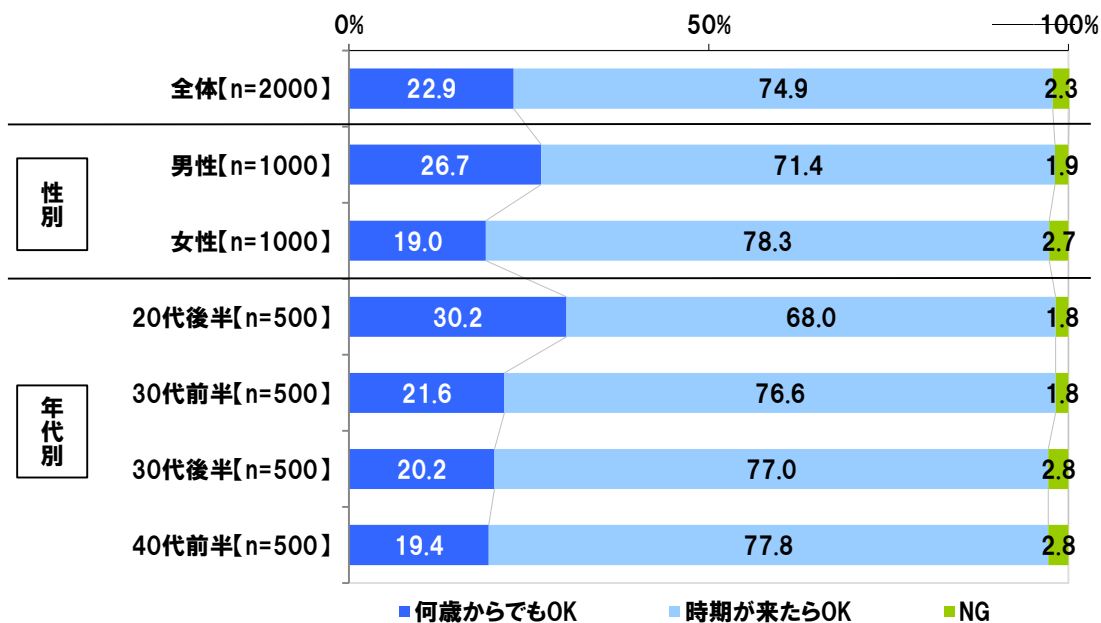


◆現在の住宅を選ぶとき重視せず、後悔していること(複数回答)

※対象:実家住まい以外の方

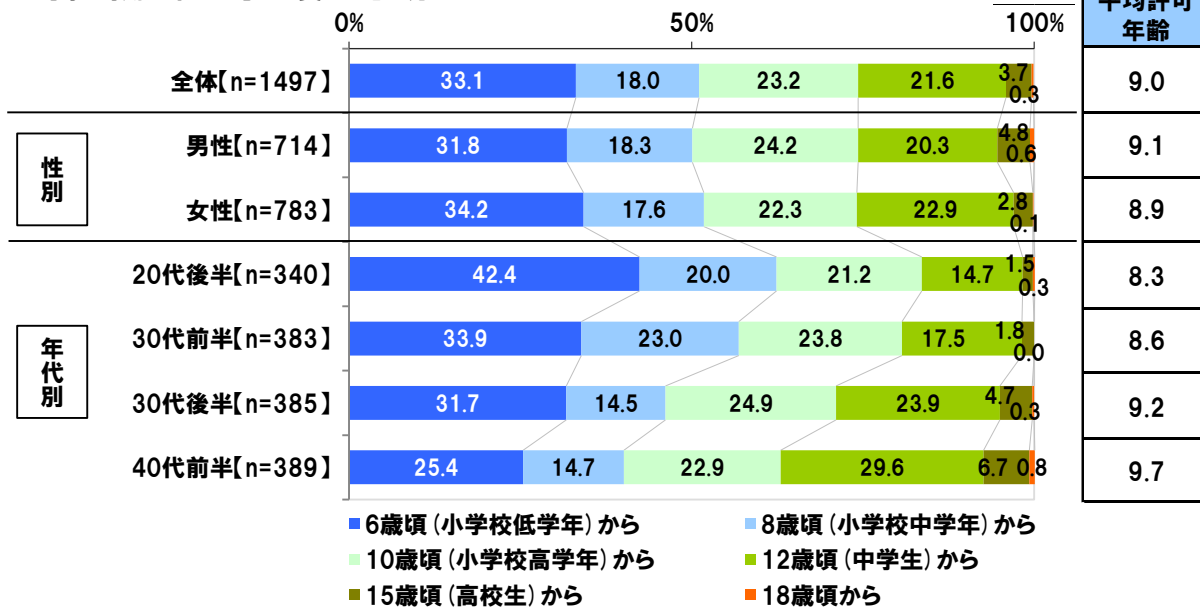


◆子どもに子ども部屋を与えて良いと思うか(単一回答)

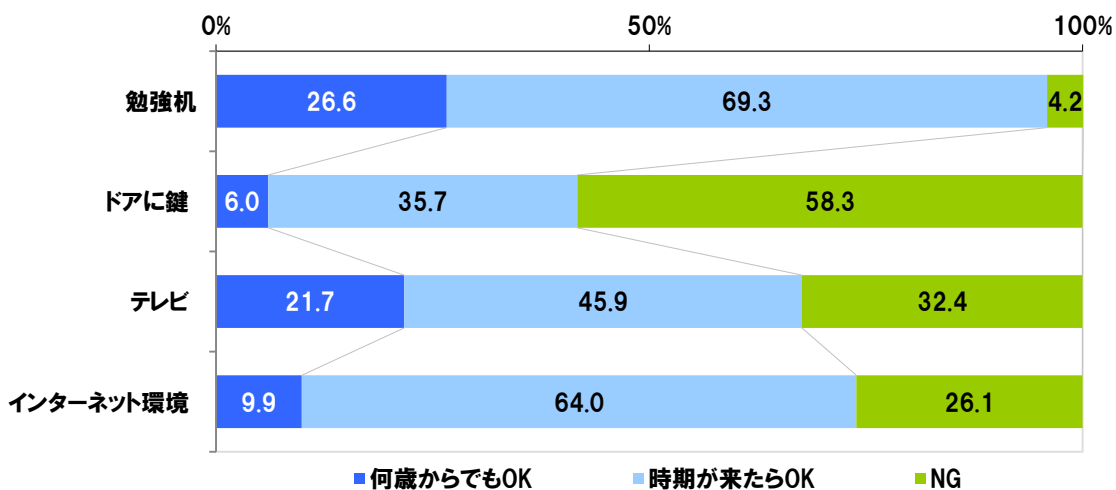


◆何歳頃から子どもに子ども部屋を与えて良いと思うか(単一回答)

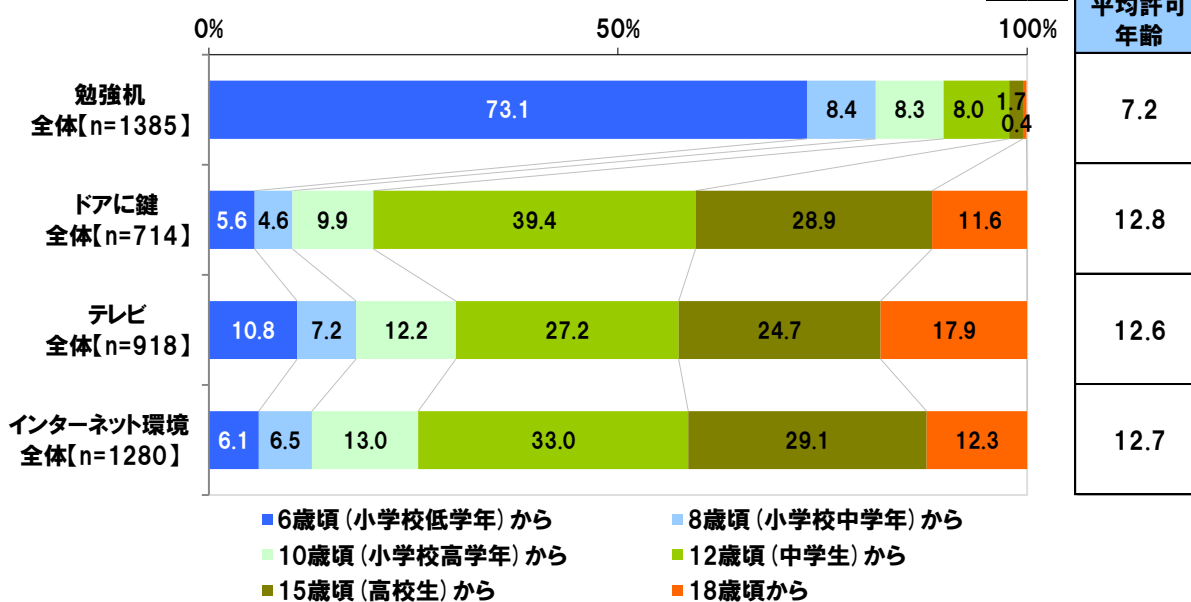
※対象: 時期が来たら与えて良いと思う方



◆以下の子ども部屋の環境について、子どもに与えて良いと思うか(単一回答)
※全体[n=2000]



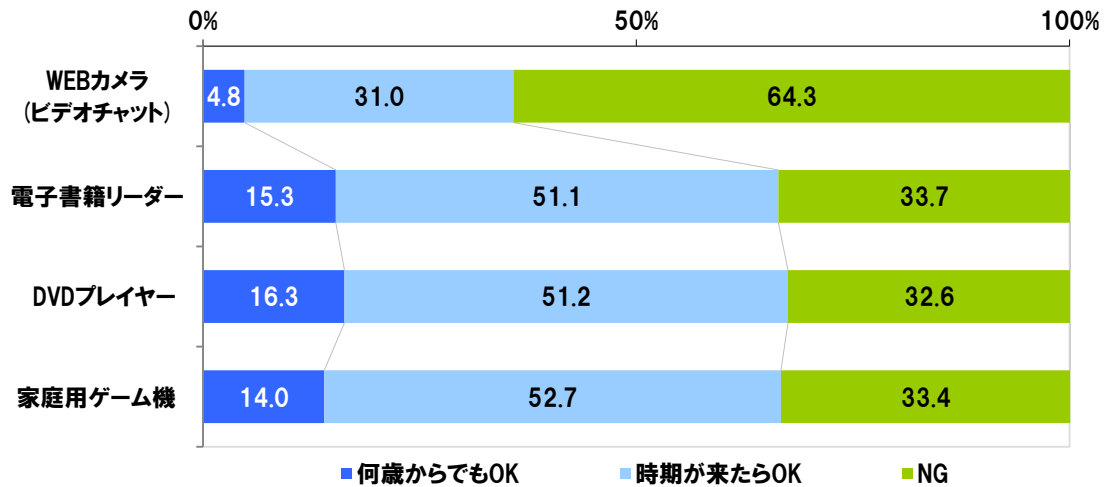
◆何歳頃から以下の子ども部屋の環境を、子どもに与えて良いと思うか(単一回答)
※対象:項目ごとに時期が来たら与えて良いと思う方





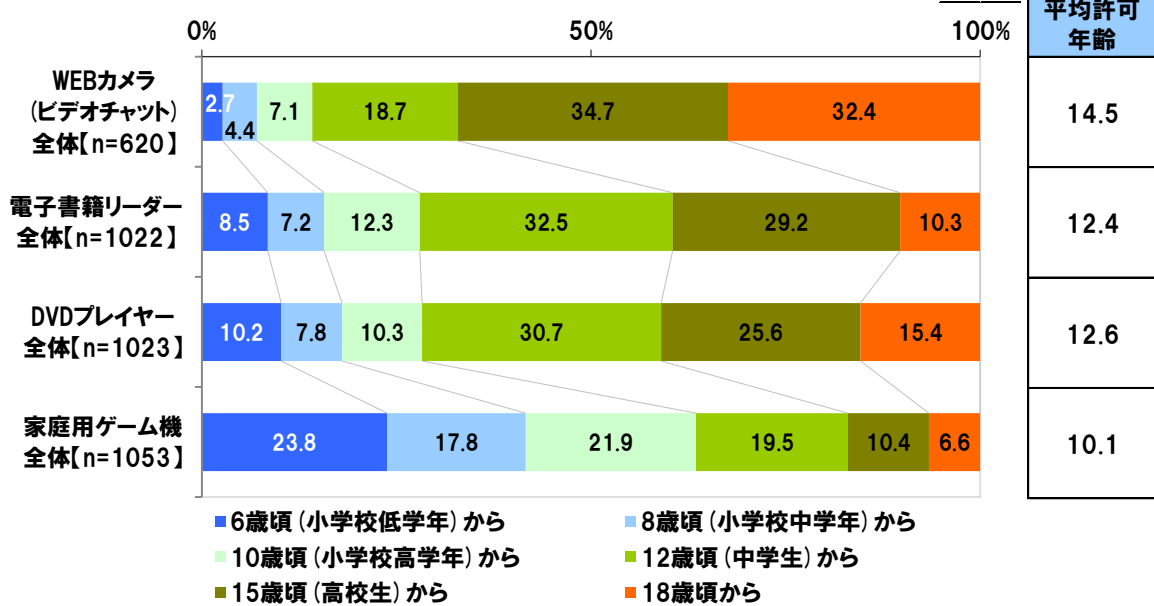
◆以下の子ども部屋で使う私物について、子どもに与えて良いと思うか(単一回答)

※全体[n=2000]



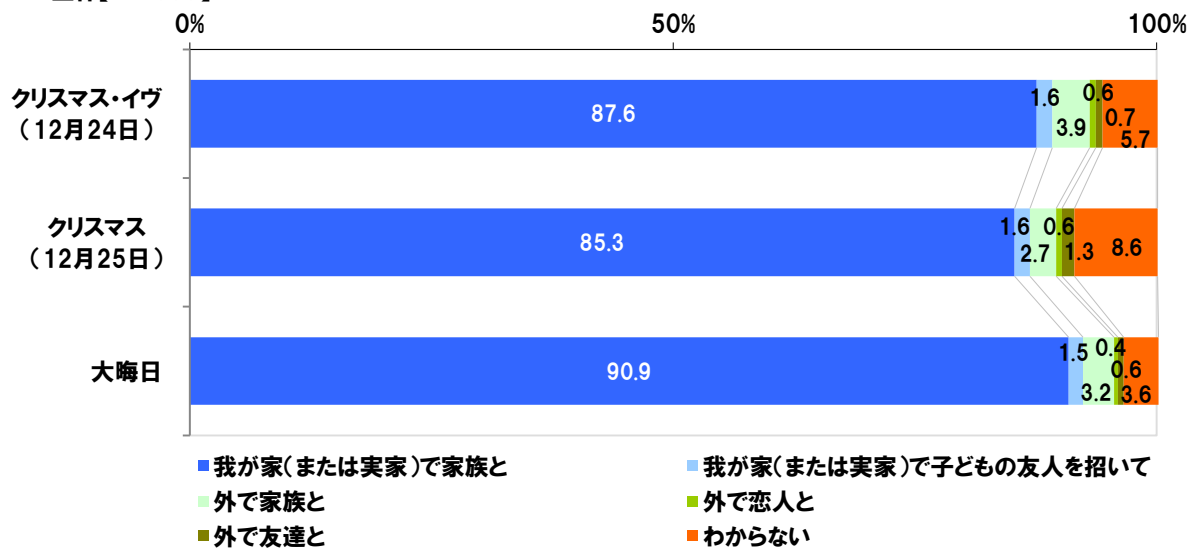
◆何歳頃から以下の子ども部屋で使う私物を、子どもに与えて良いと思うか(単一回答)

※対象: 項目ごとに時期が来たら与えて良いと思う方



◆年末のイベントについて、夕食の時間帯に子どもがどこで過ごす予定か(単一回答)

※全体[n=2000]



◆調査概要◆

- ◆調査タイトル：子どもの成長と住宅選びに関する調査
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモバイルモニター会員を母集団とする
高校生以下の子どもがいる25歳～44歳の男女
(内訳)
男性1,000名、女性1,000名、男女ともに25～44歳を5歳区切りで各250名
- ◆調査期間：2013年11月21日～2013年11月26日
- ◆調査方法：インターネット調査(モバイルリサーチ)
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：2,000サンプル(有効回答から2,000サンプルを抽出)
- ◆実施機関：ネットエイジア株式会社

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、
「セルコホーム調べ」と付記のうえご使用くださいますよう、
お願い申し上げます。

■■本調査に関するお問合せ窓口■■

セルコホーム株式会社 開発部 広告企画課
担当 : 鈴木

住所 : 宮城県仙台市青葉区上杉 2-1-14
会社 HP : <http://selcohome.jp/>
TEL : 022-224-1111(代)
FAX : 022-265-8517
Eメール : ps.koho@selcohome.jp